

英語教育推進事業
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

令和2年7月

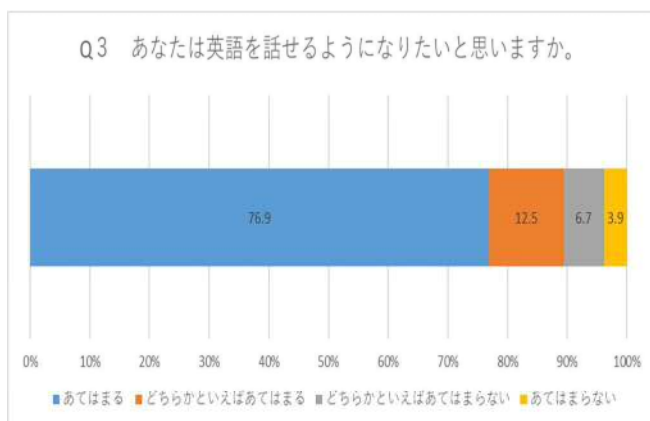
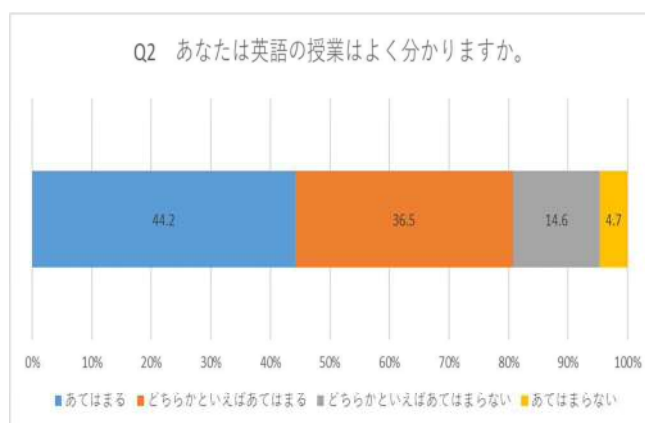
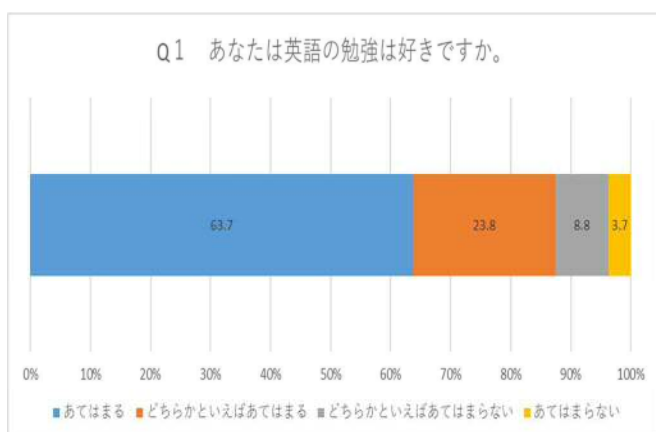
池田市教育委員会

1. 概要

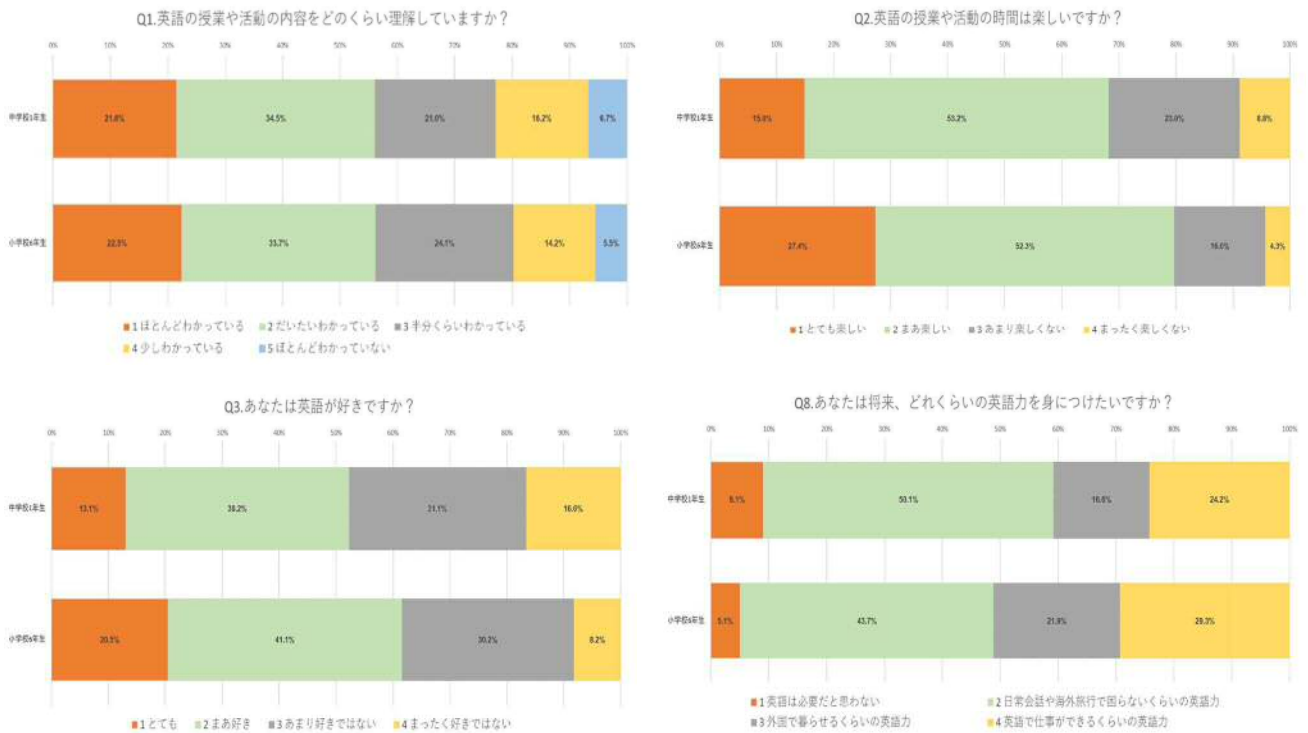
- 池田市では、平成27年度より、市内の全小学校・義務教育学校にて教育課程特例校として、小学校第1・2学年に「英語活動」を設置する特別の教育課程を編成しています。低学年では主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。中学年からの外国語活動、中学校の英語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。
- 平成29年度から小学校6年、中1、中2の3学年を対象に、英語活用能力調査(GTEC)を実施しています。GTECとは、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を測定する外部試験です。小6、中1は、4つの技能を全てタブレットで測定します。中2は、3技能は筆記、「話す」技能は、タブレットにて測定します。GTECを通して、子どもたちの英語力を測定し、取り組みの成果や課題をとらえ、授業改善に取り組んでいます。

2. 池田市の児童・生徒アンケート結果

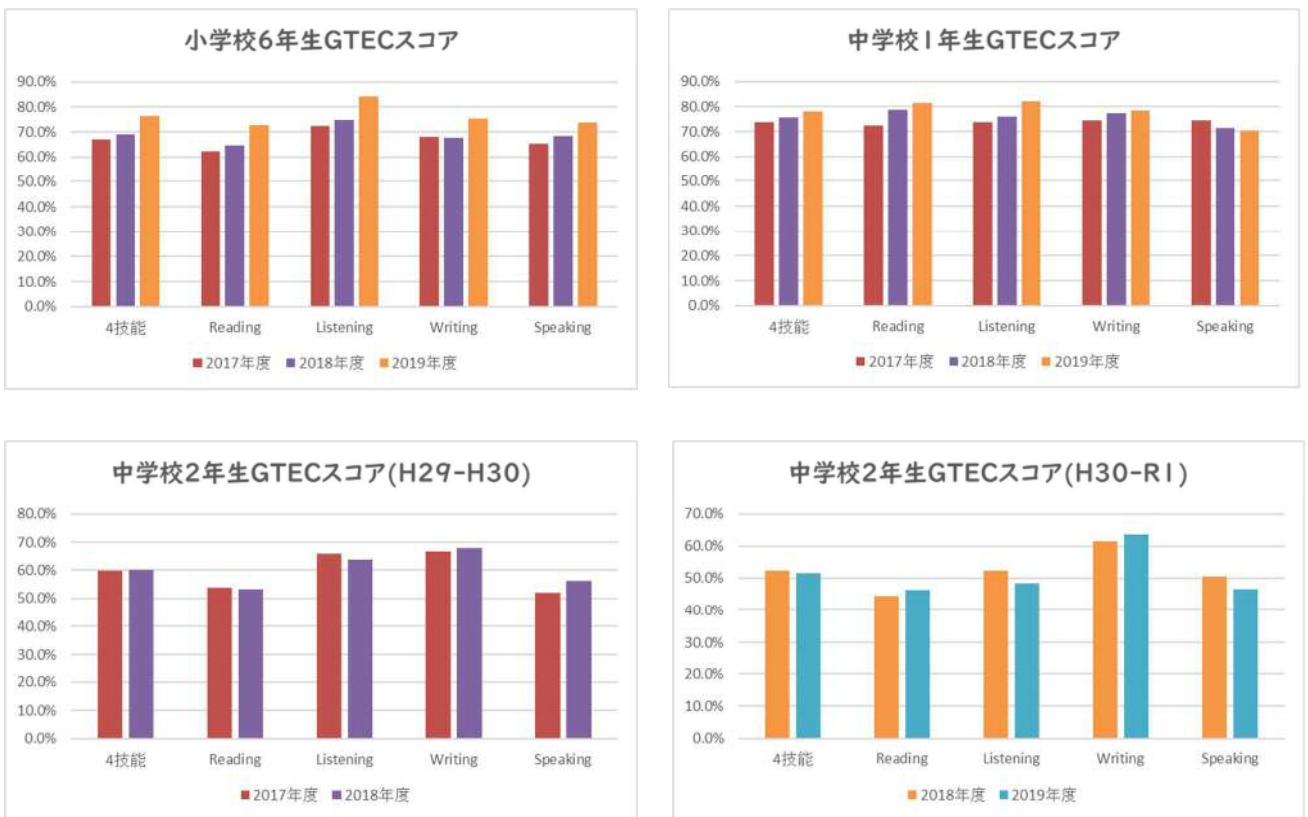
【小学校1年生・小学校2年生対象(教育特例校)】



【小学校6年生・中学校1年生対象 (GTEC)】



3. 池田市の GTEC スコア (小学校6年生・中学校1年生・中学校2年生)



※平成30年度に GTEC の指標が変わったため、中学校2年生はグラフが分かれています。

4. アンケート等の結果より

- ・小学校では英語力の向上が図られている。特に、listening において成果が見られる。小学校低学年では、楽しみながら英語を聞く場面を多く設定することで、英語の音声に慣れ親しむことができてきた。しかし、「英語の授業が楽しくない」と感じている児童もいる。今後も、発達段階に応じた英語の授業の積み重ね、また、子どもたちが楽しいと思える授業づくりに取り組んでいく。

5. 英語担当教員アンケート(小学校1・2年生の英語活動について)

- ・小学校1・2年生では、英語のテキストがないため、学級担任と一緒に指導内容をしっかりと考えて、計画を立てる必要がある。
- ・子どもたちは、とても楽しく活動している。英語に慣れ親しみながら、毎授業を楽しみにしている。1・2年生のペアワークは少し難しいと思ったが、だんだんとできるようになっていった。英語の単語に慣れて、短い文も言えるようになっていった。
- ・小学校1・2年生で繰り返し「Do you like〜?」などの表現を使うことで、3・4年生でも抵抗がなく、授業を進められる。低学年では、楽しんでゲームや歌などのアクティビティを中心に行っているため、「英語が楽しい」という気持ちで、子どもたちが取り組むことができている。
- ・楽しい活動を中心に行い、子どもたちがだんだんと英語を好きになっている。低学年のうちに、もっと英語に触れてもらいたい。
- ・歌をふんだんに使い、体や指を動かす活動も多く取り入れ、「できる・わかる」授業をこころがけている。児童の個人差をどのように埋めるかが課題。
- ・簡単なあいさつや気持ち、物の名前などを通して楽しく英語に触れている。はずかしがらずに体全体で表現したり、発表したりする姿は、低学年らしくとてもよい。塾や英語スクールに通っている子とそうでない子の差が大きくなってきたのが今後の課題。

6. 保護者・学校関係者等の評価(GTEC・特例校制度について)

- ・今の高2の子たちから大学入試が変わる。英語の外部試験の受験の採用もあるので、小さいうちから英語に触れられるのは良いこと。継続しないと意味が無くなるのでぜひ、継続して欲しい。
- ・GTEC 等を実施することで、高校受験に有利に働くようにできればよりよい。
- ・小学校6年生からGTECを取り入れていることに先見性がある。子どもたちの英語力を把握することは、非常に大切。1点、気にかかることは、3割ぐらいの子が、嫌だと思っている。嫌だと思っ子どもは、絶対に出てくるが、これらの子どもたちが自主的にやりたいと思うようにすることが大切。先生方の指導力についてもGTECを活かし重視していく必要がある。
- ・英語の試験を受けて大学に入学してくるが、最後はやっぱり文法力。基本的な文法をおさえて欲しいというのがうちの大学でいつも言われる課題。

7. 今後に向けて

- ・ 令和2年度から、小学校5・6年生から外国語が教科になり、小学校1年生から中学校3年生までの英語教育のつながりをより意識した取り組みが求められる。今後、「英語が好き」「英語の授業が楽しい」と思う子どもが増えるような授業改善に取り組んでいく。
- ・ 「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語の4つの技能をバランスよく身につけ、継続的に自分の成長を実感するには、スコア型の英語検定はとても有効である。今後も、客観的な指標をとり、子どもの学力を確実に見取り、授業改善に活かす取り組みを継続していく。